

令和5年度 「魅力ある学校づくり」能美市立浜小学校 学校評価（中間）

項目	目標達成に向けた方策	主担当	【評価指標】	【達成度判断基準】	取組状況および今後に向けて
1 令和の 日本型 教育の 実現を めざす 組織体 制づく り	①授業改革の実現をめざす体制づくり	主幹 (納谷)	【学校教職員アンケート 1】 校長ビジョンの具現化のために、今年度の重点に沿った活動や取組を考えたり、児童とめあてを確認しながら実施したりしている。	【教員】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケートの結果評価はAであった。4月から総務委員会と主任同士で話し合い、学校組織として計画的に運営することができた。しかし、児童の発育や自己の資質能力の向上を実感するまでには至っていない。各取組におけるめあてやめざす児童の姿を学校全体で共有し、目標達成のための具体を考える。2、3学期の教育計画や取組を各主任が検証し、改善を図りたい。
	②働き方改革	教頭 (河上)	【学校教職員アンケート 2】 ・時間管理や環境整備、業務の標準化を意識し、教育効果を上げる工夫をしている。	【教員】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	今年度より日課を改善して職員の業後の時間を確保したり、ICTを有効に活用することで、職員の打合せ時間を短縮したりするなどの多忙化改善策を実施した。今後はさらに、分掌部会や学年会をより組織的に運用に努めるとともに、職員の共通理解を図り業務改善の意識を高めていきたいと考える。
	③GIGAスクール構想の推進	G リ ー ダ ー (曾良)	【能美市小中学生質問紙調査 10】 ・授業では、PC端末などのコンピュータを使った学習活動をよく行っていると思う。	【教員・児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教員アンケートの結果評価はAであった。授業中に児童・授業者が積極的に使っている姿が見られる。GIGA構想をさらに推進するためには、「とりあえず使ってみる」から「個別最適な学び・協働的な学び」へとシフトしていく必要があると考える。GIGA研修を重ね、一人一人の教員が効果的にICTを活用できるように努めたい。
	今年度の重点 楽しく学び のぼそ「心の根っこ」	主幹 (納谷)	【学校児童アンケート 1・2】 ・自分には良いところがあると思う。 ・自分は学校・学級や友達の役に立っていると感じることがある。	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	児童アンケートの結果からは自己肯定感の低さが伺われたので、授業の中で、「できた！」「わかった！」といった達成感を味わわせたい。研究主題である「未来に生きる力を育む『子どもが主役』の授業づくり」に努め、ICTを活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につなげたい。生徒支援部や健康教育部と連携し、学校教育全体を通して、児童を褒める、認める場を意図的に増やしていきたい。
2 確かな 学力の 育成	①授業改善	研究 推 進 (宮川)	【学校教職員アンケート 3】 子供が学びの主体者となるために、ICTを用いた個別最適な学びと協働的な学びの理解に努め、学ぶ意義がわかる授業やPBL型授業づくりに主体的に取り組んでいる。	【教員】 A:95%以上 B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	1学期は、外部講師を招聘した研修会や提案授業を通して「個別最適な学びと協働的な学びの理解に努める」ことはできた。2学期以降は、理解したことを実践を通してアウトプットする機会を設定する。部会での国語科の研究授業や、計画訪問での公開授業、若プロのチャレンジ授業などを通して1人1実践に取り組む。また、日常的にも実践を行い、校内研修会や浜GIGA交流の時間を使って、情報交流の機会を増やしていく。
	②基礎・基本となる学力の定着	研究 推 進 (縄)	【単元末テスト】 算数の単元末テストにおいて、学年平均が90%以上になる。	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	1学期には、朝のCS道場を開催し、既習の四則計算が身につけていない児童を中心に補習を行った。また、全学年を対象に、浜っ子チャレンジ週間を設け、目標値に到達するまで繰り返し取り組む活動を行った。2学期も引き続き取り組みを続け、学力の定着を図ってきたい。
	②家庭学習習慣の確立	研究 推 進 (岩原)	【家庭学習習慣アンケート】 ・家庭学習を毎日提出している。 ・目標時間を達成する。 【学校児童アンケート 12】 ・ゲームやネット・テレビの使用および視聴時間を守る。	【児童】 A:95%以上 B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	今年度も「家庭学習パワーアップ週間」の取組を行い、家庭との連携により児童の意識を向上することができた。徹底が難しい児童もいるので、笑顔で学校に通えることを優先にバランスよく活動を進めていきたい。家庭の教育力、環境に影響なく児童の意識を向上させるために、2学期は日々の学習の状況を互いに公開するなど、よい意味での競争意識をもてるデジタル化も試みたい。
	◀みずから学ぶ子> わくわく(主体性) 知・技 基礎基本となる力を身につける 思判表 思いや考えを持ち伝え合う 人間性 学んだことを使って追求する	研究 推 進 (宮川)	【学校児童アンケート 3・4・5】 ・授業にすすんで取り組んでいる。 ・勉強がわかるように努力している。 ・学校生活を楽しくしようと思っている。	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	1学期に研修会で学んだことを具体的な実践に移し、授業改善を行い、「個別最適な学びと協働的な学び」を往還する授業を目指す。児童に任せ、自ら学び方を選択して、友達と関わりながら思考する場面を増やすことで、より児童が主体的に学習に参加する場面を作っていく。
3 豊かな 人間性 の育成	①自己肯定感の育成	生徒 支 援 (佐野)	【学校教職員アンケート 4】 授業や様々な行事・活動において、「わくわく・にこにこ・きびきび」を意識させ、児童の成長しようとする意欲、主体性の伸長を目指し、自己評価・相互評価を通し自己肯定感を高めている。	【教員】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケートの結果から「児童の自己肯定感を高めようとする」教職員の意識が高かった。年度初めの全校集会での「わくわく・にこにこ・きびきび」の共通理解と共に、3つの柱を軸とした継続的な指導ができていた。日々の授業の中でセラレ学習を取り入れ、自己評価に重点を置きながら生徒指導の4視点を意識してきたい。
	②積極的な生徒指導	生徒 支 援 (藤田)	【学校教職員アンケート 5】 「生徒指導の4視点を生かす言葉かけ」を授業の中で意図的に使うようにしている。	【教員】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	お互いが認め合い支え合う、安心安全な学級につなげるため、授業の「生徒機能の4視点を生かす教師の行動や言葉かけ」を具体的に示し、共通理解を行った。9月は授業見合い週間を設定し、先生や子どもの姿から良い姿を共通理解する。それをもとに、10月の強化月間では、「どんな姿を目指したいか」を話し合い、教師と児童とともに生徒指導の4視点を生かす言動につなげるようにする。
	◀真心でかかわる子> にこにこ(協調性) 知・技 基本的な社会性を身につける 思判表 時と場に応じて行動する 人間性 仲間と共に校風づくりに励む	生徒 支 援 (藤田)	【学校児童アンケート 6・7・8】 ・相手のことを考えた優しい言葉を使っている ・人が困っているときは、進んで助けている ・自分からすすんで挨拶をしている	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	どのアンケート結果も9割近くの評価を得た。特に、「自分からすすんで挨拶をしている」の項目で、5割近くがA評価だったことから、2学期もまご児童会や生活安全委員会の「あいさつの取り組み」を継続し、相手に大切にすることを第一歩として意識させる。関連する児童アンケート項目「自分には良いところがあると思う」「自分は学校・学級や友達の役に立っていると感じることがある」の割合が予想より低かったことから、2学期は特別活動の中でも「児童が主役となる場面」を位置づけ、各活動後のふりかえる機会を定期的に設定し、自他のよい所を認め合う場面をつくる。また、運動会で児童の個性が発揮できたり、認められたりする取組を全学級で行い、友達や学校のために働く意識を育て、児童の自己有用感を向上させる。
4 健やか な心身 の育成	①体力・運動能力の向上	健康 教 育 (北本)	【スポチャレ】 スポチャレの取組を継続的に行う。	【学級】 記録賞(トロフィー)を獲得したクラス A:全クラス B:15クラス以上 C:10クラス以上 D:10クラス未満	スポチャレの記録登録は、50%のクラスが登録済みである。そのうち3クラス4部門において記録賞を達成した。1学期は、スポーツテストを中心に取り組んでいたため、スポチャレの取り組みが十分にできなかった。2学期は、運動会があることで練習に取り組む準備運動としてスポチャレを活用させたい。スポーツテストでは、取り組み期間を設けて、最高記録を目指すことで、昨年度よりも大幅に記録の向上がみられた。スポチャレにおいても、クラス間での交流や異学年との交流を通して、みんなで協力して記録をめざそうとする態度を育てたい。そのため、掲示物の工夫や、高学年が低学年に種目のコツを教える、取り組みの様子を動画で紹介するなど、目に見える形で取り組みの推進をしていきたい。
	②健康教育の充実	健康 教 育 (岩原)	【保護者アンケート 6】 ・ご家庭では、テレビやゲーム、SNS等について利用ルールを決めて実行している。	【保護者】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	各家庭でのルールづくりおよび実行については学校として啓発活動を行い、保護者に協力を仰いでいるが、体力テストの結果からも一日3時間以上のスクリーンタイム(画面を見ている時間)が習慣化している児童がいることが課題である。今後は各家庭でのルールと現状がどのようなになっているか情報を集め、有益な情報をまとめて発信したり、「デジタルデトックスの日」を各家庭で設定してもらい、結果をややメリットを広くお知らせする活動に取り組む。
	◀よりよく生きる子> きびきび(革新性) 知・技 望ましい生活習慣を身につける 思判表 目標を立てて、粘り強く取り組む 人間性 健康安全に生活する	健康 教 育 (北本)	【学校児童アンケート 10・11・12・13】 ・時間を守って登校している ・体育の授業ではめあてをもつて一生懸命取り組んでいる ・家庭でテレビやゲームのルールを決めて守っている。 ・ゲームやSNS、ネットでは、正しい付き合い方ができている。	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	今年度は、「きびきび動ける子」として、時間を守る、特に遅刻者を減らすことを目標に掲げた。担任をはじめ、全員で朝のチャイムまでに座っていることを呼び掛けることで遅刻者がほとんどいなくなってきた。コロナが明け、体育の取り組みの規制もほとんどなくなり、思いっきり体を動かすことで運動に楽しんで取り組むようになった。GIGAの推進により、タブレットが身近なものとなり、いろいろな場面で活用できるようになった。しかし一部の児童で、動画視聴などタブレットを手放せなくなっているものも少なからず出てきており、対策が必要である。メディアリテラシーやネットトラブルに関することなど、児童だけでなく、保護者の方も含めて啓蒙学習を進めていきたい。
5 家庭・ 地域と の連携	①コミュニティスクール事業の推進	教頭 (河上)	【保護者アンケート 3】 PTA活動や各種ボランティアや見守り等に参加するなど、安心安全な学校づくりに協力している。	【保護者】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	これまでのPTA活動として、地域見守り隊の活動【年間】、あいさつデー(週間)の取組【年間】、授業参観後の学年・学級懇談会【5月】、年2回の早朝奉仕作業【6・9月】、6年親子レクリエーション【8月】を実施してきた。多くの保護者の方のご協力のおかげで、児童の登下校時における交通事故も不審者情報もなかった。また、多くの保護者や地域の方がプール監視ボランティアとして、児童の水泳授業の安全を見守って下さった。今後も積極的に保護者、地域と連携を図りながら、安心安全な学校づくりをめざしていきたい。
	②ふるさと能美市を愛する心と態度の育成	教頭 (河上)	【学校教職員アンケート 6】 総合的な学習の時間や道徳および行事等における学びや体験活動の充実を図り、ふるさと能美市を愛する心と態度を養う学習活動の推進に努める。	【教員】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	3年「能美市のすてき発見」4年「未来の能美市について考えよう」5年「地域の環境」6年「働く人から学び、これからの自分に生かそう」を総合的な学習のテーマに設定し、ふるさと能美市を愛する心と態度を養う活動を行ってきた。今後はさらに、地域の人、もの、ことに関わる探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、地域の特徴やよさに気づかせていきたい。
	ふるさと能美市を愛する子	教頭 (河上)	【学校児童アンケート 14】 地域のことを調べたり学んだりして、能美市や根上のことがわかったり良さを発見できたしたり。	【児童】 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	3年生以上の学年において総合的な学習の時間を中心に、ふるさとに関する学習活動を年間計画に位置付けて行ってきた。(3年:塩づくり体験・丸いもづくり調べ、4年:福祉体験活動、5年:根上海岸清掃、6年:能美市の伝統・文化調べ等)様々な体験活動や外部講師の講話を通して、児童は能美市についての伝統やよさについて学ぶことができた。今後はさらに、児童を主体とした探求活動を計画的に推進し、ふるさと能美市を愛する心と態度を養成していきたいと考える。